

認知症の73歳妻絞殺 80歳夫に執行猶予判決

高齢化が進む中、介護される人もする人も、ともに高齢者という「老老介護」が社会問題となつていく。介護する家族が精神的に追い詰められ、事件になるケースも後を絶たない。重くのしかかる介護の負担、将来への不安……。専門家は「一人で悩まず、身近な人や専門の窓口相談してほしい」と呼びかける。

事件は7月31日深夜に起きた。船橋市の男性(80)は、自宅2階で寝ていた妻(当時73)の首にタオルを巻き、絞めた。男性はおいを逃して110番通報。だが翌日、妻は搬送先の病院で亡くなった。

男性は殺人罪に問われ、千葉地裁の裁判員裁判で今月22日、懲役3年執行猶予5年の有罪判決を受けた。



事件現場の寝室(手前)＝船橋市

首絞めた理由「わかりません。答えが出ません」

1人で介護した。「夫の役目。当然だと思った」。弁護側の被告人質間で男性はそう話した。妻は失禁を繰り返し、火の不始末を注意されると食ってかかった。意思疎通も難しい状態。それでも「愛情と責任感を持って世話していた」。男性について、判決はそう認定した。ところが――。

7月31日の夕食後、2階の寝室隣の和室で、妻が粗相をした。「なんてことしたんだ」。思わず声を荒らげた男性に、妻は言い返した。「殺せばいいでしょ」。

男性はとっさに両手を妻の首に掛けた。だが、払いのけられた。

その後、男性は1階で仮眠をとった。目を覚まし、再び2階へ。強い異臭がする中、平然と眠っている妻の姿を見て、その首にタオルを巻いた――。検察側の被告人質間で、首を絞めた

理由を問われた男性は「わかりません。答えが出ません」と繰り返した。

男性の姉(85)は朝日新聞の取材に、2人は旅行が好きだったと話した。結婚してちょうど50年。約8年間にわたる介護。「50周年の記念旅行をしたい。最後になりそうだから(妻に)海外のきれいな景色を見せたい」と男性は言っていたという。事件直後、男性は姉に電話をした。「おれ、殺しちゃったんだ」と。

裁判で検察側から妻について尋ねられ、男性は「人生を奪っちゃったことを謝罪である」

つらさ・不安共有を

厚生労働省によると、65歳以上の認知症の人は2012年時点で推計462万人。25年には700万人に達するという予測もある。認知症の人を、介護する家族があやめたり、虐待したりする例も各地で相次いでいる。公益社団法人「認知症の人と家族の会」(千葉県)の広岡成子代表(68)は「誰にも相談せず、一人で行き詰まる人が多いのではないかと話す。本人の自尊心を傷つけるのではないかと――。そんな思いから、周囲に明かしたり弱音を吐いたりできないという。会には「近所から変な目で見られるのではないかと」といった相談も多い。広岡代表は「介護のつらさや将来への不安を共有する相手がいれば随分違う。身近にいないければ自治体や病院、専門団体に相談してほしい」と話している。

■認知症の介護に関する主な相談先

- ◇ちば認知症相談コールセンター 043・238・7731 (月、火、木、土曜の午前10時～午後4時)
- ◇認知症の人と家族の会県支部 043・204・8228 (月、火、木曜の午後1～4時)
- ◇認知症疾患医療センター (県が地域ごとに9病院、千葉市が1病院を指定) 問い合わせは県高齢者福祉課認知症対策推進班 (043・223・2409)
- ◇市町村が設置している地域包括支援センターなど 問い合わせは県高齢者福祉課地域包括ケア推進班 (043・223・2342)